

ASELE

No. 34

The Aomori Society of English Language Education Newsletter
Thursday, December 26, 2024

青森県英語教育学会通信第 34 号
令和 6 年 12 月 26 日

青森県英語教育学会研究大会開催

青森県における英語教育の普及と発展のため、青森県英語教育学会では下記の通り、研究大会を開催いたします。会員のみなさまはもちろん、県内の英語教育に関心を持っている方なら誰でも参加いただけます。

日時

令和 7 年 3 月 1 日（土）12:55 - 17:30

会場

弘前大学 総合教育棟 305 講義室（予定）

会費

会場で参加 会員、非会員の学生・院生：無料

非会員の社会人：¥500 を会場で現金払い

Zoom で参加（会員・非会員 関係なく）：無料

プログラム

- 12:30 総会
- 12:55-13:00 開会、会長の挨拶
- 13:00-13:30 研究発表 1：前田 凌玖 氏（弘前大学大学院教育学研究科）
- 13:40-14:10 研究発表 2：菊池 秋夫 准教授（八戸工業高等専門学校）
- 14:20-15:20 実践研究：小澤 直史 教頭（東奥義塾中学校）
- 15:30-17:30 講演：酒井 英樹 教授（信州大学）
「現行学習指導要領における英語教育の現在とこれから」
- 17:30 閉会

来年度の東北英語教育学会研究大会は秋田で

来年度の年次研究大会は秋田支部が担当支部となっております。シンポジウムテーマや等については、これから随時公表されることになりますが、ご理解のほどよろしくお願ひ申し上げます。

青森支部は自由研究発表と校種指定の研究発表の司会者を担当します。秋田支部から具体的な日程等について連絡が来ましたら改めてメールでお知らせいたします。発表の希望等ございましたら、事務局あて（telesaomori@gmail.com）にメールでご連絡ください。

東北英語教育学会 第43回秋田研究大会

【期　日】 2025年（令和7年）6月29日（日）Please confirm on the Website

【会　場】 Please confirm on the Website

【日　程】 Please confirm on the Website

6月28日（土）

14:00～17:00 理事会

6月29日（日）

9:00～受付

9:30～9:45 開会式

9:50～11:30 研究発表

*発表 30 分（発表 20 分、質疑応答 10 分）×3、発表間の休憩 5 分×2、計 100 分間

11:30～12:40 昼食・休憩

12:40～13:00 総会

13:10～15:20 シンポジウム

青森から館田剛教諭（弘前高等学校教諭）が発表予定です。

*講師紹介等 10 分、発表 60 分（20 分×3 名）、休憩 10 分、質疑応答 50 分

15:20～15:30 閉会式

なお、大会情報につきましては、以下の全国英語教育学会ウェブサイトでもご確認いただけます。

<https://sites.google.com/site/tohokueigo/>

全国英語教育学会第 50 回記念埼玉研究大会

来年度の全国英語教育学会研究大会は九州地区英語教育学会の主管により対面で開催予定です。全国会員の方には、来年 5 月上旬に大会要項が大会事務局から送付される予定です。

全国英語教育学会第 50 回記念埼玉研究大会は、

2025 年 8 月 9 日・10 日に獨協大学で開催を予定しております。

For more information, see <http://www.jasele.jp/>

この学会において、青森県支部は授業研究フォーラムを担当します。

テーマは、『英語科の授業における生成 AI の活用と課題』で以下の 3 名の先生方が中学校・高等学校・大学の立場から実践を発表する予定です。

横内 裕一郎（福島大学）

堤 孝（青森県立田名部高等学校）

小西 静子（青森市立北中学校）

第 25 回 小学校英語教育学会 (JES) 全国大会 東北・秋田大会

<テーマ>

「21 世紀の小学校英語教育 一個別最適で協動的な学びを目指して—」

開催日： 2025 年 7 月 5 日（土）・6 日（日）

会場： 国際教養大学（秋田県秋田市）<https://web.aiu.ac.jp>

Akita International University (AIU)

B 棟・D 棟（予定）

青森県からは、弘前大学教育学部附属小学校で行っている、Can-do リストに基づいたスマートトークの実践を授業研究フォーラムで下記のとおり発表します。

タイトル 『児童生徒の気持ちを反映した Can-do リストの開発とそれにに基づいた小中一貫の Small Talk の実践』

発表者

田中久絵（弘前大学教育学部附属小学校）

工藤麻乃（弘前大学教育学部附属小学校）

大野雅子（弘前大学教育学部附属小学校）

会員登録の確認と学会費納入のお願い

令和7年1月末日までに下記振込先まで学会年会費をお振り込みいただきますようお願い申し上げます。
東北会員は4,000円、全国会員は6,000円となっております。現時点での会員登録状況を確認したい場合は下記連絡先、事務局佐藤までご相談ください。また、6月24日（土）25日（日）に開催された理事会・総会で審議の結果、来年度以降の会費について以下のように変更されることになりました。

一般会員の会費を年1,000円増額、4,000円

大学生・大学院生については3,000円のまま現状維持

これを受け、青森支部としては実質的な増額はせず、以下のように内訳を変えることで対応いたします。

これまで 東北2,000円、青森2,000円

今年度 東北3,000円、青森1,000円（学生会員は3,000円の納入）

なお勤務先、現住所、メールアドレスを変更された場合は速やかに事務局までご連絡ください。

青森県英語教育学会通信（ASELE Newsletter）第34号

2024年12月23日発行

発行者 青森県英語教育学会（ASELE）

代表者 丹藤永也

発行所 〒036-8560 弘前市文京町1 弘前大学教育学部英語教育講座 佐藤剛研究室

青森県英語教育学会（東北英語教育学会青森支部）事務局ニュースレター担当

電話&FAX：0172-39-3448 E-mail：telesaomori@gmail.com

学会費振込先 青森銀行富田支店 普通預金 口座番号 1009612 名義 青森県英語教育学会 事務局 佐藤剛



Rausch 先生と伴先生が中心となって毎月お届けしている Real English も今月分で 21 号となりました。

2024 年分のダイジェストは以下の通りです
今年一年の内容を振り返ってみてはいかがでしょうか。

また来年度取り上げてほしいテーマ等リクエストもお待ちしております。

REAL ENGLISH – 2024 Let's take a look at what we studied in REAL ENGLISH during 2024

Volume 10 January **How we Start Our Sentences**

We considered the different ways to start sentences - even when saying the same thing.

Volume 11 February **Enjoying English through Music Lyrics**

We looked at how song lyrics can provide entertaining samples of REAL ENGLISH.

Volume 12 March **Noticing the Difference**

We looked at some samples of ‘differences’ in English passages – this helps us to notice both the major flow of language as well as the minor points of language.

Volume 13 April **Positive versus Negative Phrasing**

We considered the different ways of phrasing things – sometimes in a positive manner and sometimes in a negative manner.

Volume 14 May **Making Changes to Make English Your Own**

We looked at how we can make changes to the English we read such that it becomes our own English ... very important in learning.

Volume 15 June **Confusing Words (2)**

The 2nd REAL ENGLISH on confusing words ... focusing on exactly what the title says:
CONFUSING WORDS.

Volume 16 July **Discourse Markers to Help the Listener**

We considered how use of various Discourse Markers can make our English clearer and easier for the ‘other’ person to understand.

Volume 17 August **English Expressions that Teach the English Language**

Every language has its own unique expressions ... we looked at some interesting expressions that help us understand English.

Volume 18 September **Gairaigo as a Window onto Language**

Only Japanese has *gairaigo* ... and it gives us insight into English vocabulary and how these words have come to be used in Japanese.

Volume 19 October **Using English**

Quoted Speech versus Reported Speech: This is an important part of speech ... so we looked at how language changes from Quoted Speech to Reported Speech.

Volume 20 November What is Pragmatics

We took several cases of ‘real English use’ to consider how pragmatics works to bring the meaning to the language we create.

Volume 21 December Articles in English

We looked at the first step in using the articles [a], [the] or [-nothing-] correctly.

Remember to check out all the **REAL ENGLISH** content ... on the ASELE Website!
[\(青森県英語教育学会のウェブページ\)](#)



とうとう今年も終わりです。今年度は残り少しですが、実は小中高全ての学校で新しい学習指導要領がそろい踏みになった初めての年でした。各校種の先生方、指導において何か変化を感じているでしょうか。幼小接続、小中接続、中高接続、高大接続とそれぞれ児童生徒にギャップを感じさせない指導が求められています。そのよう中で、話すこと、聞くこと、書くこと、読むことの4技能において、語彙や文法、論理展開やさまざまな表現などを指導する上で、先生方においていろいろな工夫等を行っていることと思います。さらにいえば、S T E A M教育などの教科横断的な指導において国際言語である「英語」は他教科のよき相方であろうかと思います。その点において、英語指導の可能性は無限大ということになります。他教科ともどんどんコラボして欲しいところです。

皆さんは児童生徒を最初に受け持つに当たり、その子ども達がどのくらいの語彙を持っているか、事前に把握しているでしょうか。また、把握しようとしているでしょうか。もちろん語彙量は学習者の一つの側面でしかありませんが、子ども達の実態を捉えることは授業や指導を行うにあたって指導観や生徒観に深く関わってくるのではないでしょうか。かといつていきなりテストをするのも・・・。

やはり I C Tが急速に発達した現代においては、アプリの活用が一つの解決策になると思われます。一人一台情報端末が整備され、また若年層へのスマートフォンの普及により、手軽に無料で語彙を確認できるものが多数あります。もちろん、個人情報等や規約には気を付けなければなりませんが、大変便利です。児童生徒が既に使っているものを情報提供してもらうだけでも一歩進みます。（インストールして使用したい場合は、様々な制約がありますので各校の担当の先生に相談してみてください。）

また、各校種において、働き方改革が進む中、県立学校でも自動採点システムの導入が進んでいます。定期テストはさることながら、ちょっとした工夫で単語テストや小テストの採点も時間を掛けずにできます。50代の私としては、毎休み時間、時には持ち帰りで車の中で採点していたこともあり夢のような状況です。空いた時間は、児童生徒と話すもよし、教材研究を充実させるもよし。

みなさんの学校の実践例があれば是非事務局まで教えてください。Let's 共有。